


野菜の需給・価格動向レポート(平成26年7月22日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	6月の価格情報			7月の価格情報		生育及び価格の7月の見通し			
	平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額				
		中旬	下旬				上旬		
葉 茎 菜	キャベツ 	67.20	59	85	74.19	77	・入荷見込量: 16,340t (100) ・主産地: 群馬 (64)、岩手 (14)、茨城 (6)	・群馬産は、生育は順調で若干前倒し出荷となっており、今後の天候次第ではあるが平年並み若しくはやや多めの出荷の見込み。岩手産は、生育期が干ばつ傾向であったが、台風8号による降雨で小玉傾向が解消され、生育は順調となったことから、平年並みの出荷の見込み。	
		81.66	69	93	88.91	78	・入荷見込量: 4,200t (96) ・主産地: 群馬 (55)、長野 (28)	・群馬産の出荷が平年並み若しくはやや多めの出荷と見込まれることから、価格は平年を下回る見込み。	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ) 	264.10	364	293	273.33	348	・入荷見込数量: 4,200t (105) ・主産地: 茨城 (65)、千葉 (14)、埼玉 (6)、輸入 (6)	・茨城産は、生育は曇雨天の影響で停滞気味で現在平年より少なめの出荷となっており、今後は天候次第であるが、概ね平年並みの出荷を見込んでいる。千葉産は、出荷の終盤を迎えることもあり微減傾向となるも、平年並みで推移する見込み。	
		334.73	267	279	487.13	264	・入荷見込数量: 240t (108) ・主産地: 徳島 (26)、香川 (22)、奈良 (13)、三重 (12)、大阪 (9)、高知 (7)	・茨城産及び千葉産の出荷が概ね平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
	はくさい 	67.05	72	93	58.82	72	・入荷見込量: 5,830t (100) ・主産地: 長野 (90)	・長野産は、梅雨入り後、降雨と曇天が続いていたものの、特段の病害もなく生育は順調であることから、現在やや多めの出荷となっているが、今後は天候次第ではあるが平年並み若しくはやや多めの出荷の見込み。	
		77.96	78	90	62.79	75	・入荷見込量: 2,700t (101) ・主産地: 長野 (99)	・長野産の出荷が平年並み若しくはやや多めと見込まれることから、価格は平年をやや下回って推移する見込み。	
	ほうれんそう 	376.10	426	538	583.95	525	・入荷見込量: 880t (95) ・主産地: 栃木 (23)、群馬 (23)、茨城 (22)、岩手 (13)	・群馬産は、平坦地から高冷地へ切り替わり、生育は順調なものの、大雪によりハウスの面積が減少したことで平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、は種期の乾燥により生育にばらつきが見られたものの、その後の適度な雨が平年作へと回復したことから、平年並みの出荷の見込み。	
		396.89	515	649	670.86	554	・入荷見込量: 450t (95) ・主産地: 岐阜 (81)、北海道 (9)	・群馬産はやや少なめの出荷が見込まれるものの、栃木産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年をやや上回って推移する見込み。	
	レタス (結球) 	120.13	121	121	120.13	119	・入荷見込量: 9,630t (100) ・主産地: 長野 (85)、群馬 (10)	・長野産は、生育は概ね平年並みで、7月上旬過ぎまではまとまった出荷があったが、現在はやや少なめの出荷であり、今後平年並みの出荷となる見込み。群馬産は、6月の梅雨入り後に雨が続き日照が少なく、一部の産地では雹害の被害もあったが、概ね平年並みの出荷となっており、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		125.61	124	121	125.61	121	・入荷見込量: 2,100t (110) ・主産地: 長野 (99)	・長野産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は回復し平年並みで推移する見込み。	
たまねぎ 	71.02	95	105	84.85	106	・入荷見込量: 9,420t (95) ・主産地: 佐賀 (41)、兵庫 (30)、輸入 (9)、香川 (7)	・佐賀産は、収穫は終了して現在は貯蔵品の出荷となっており、平年並みの出荷の見込み。兵庫産も収穫は終了し、貯蔵品の出荷となり平年並みの出荷の見込み。		
	71.02	96	103	84.85	104	・入荷見込量: 3,000t (76) ・主産地: 兵庫 (71)、佐賀 (26)	・佐賀産及び兵庫産は収穫が終了し計画的な出荷となっており、現在平年を上回る価格は、引き続き平年をやや上回って推移する見込み。		
果 菜	きゅうり 	189.84	290	252	210.69	206	・入荷見込量: 7,590t (100) ・主産地: 福島 (38)、岩手 (13)、秋田 (11)、宮城 (5)、埼玉 (5)	・福島産は台風の影響もなく最近の夜温も高くなってきていることから、生育は順調で平年並みの出荷の見込み。岩手産は、特段の病害もないことから、生育は順調で平年並みの出荷の見込み。秋田産は生育は順調なことから、現在やや多めの出荷となっており、引き続きやや多めの出荷の見込み。	
		177.22	227	235	221.71	189	・入荷見込量: 2,000t (91) ・主産地: 福島 (26)、愛媛 (24)、北海道 (21)、香川 (6)	・福島産及び岩手産が平年並みの出荷が見込まれるが、秋田産がやや多めの出荷が見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年をやや下回って推移する見込み。	
	トマト (大玉) 	209.59	199	232	229.51	281	・入荷見込量: 8,170t (100) ・主産地: 青森 (17)、栃木 (11)、茨城 (9)、千葉 (9)、福島 (7)、岩手 (7)、秋田 (7)、群馬 (6)	・青森産は、5月の気温が高かったことから生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、目立った病害はなく生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。茨城産は冬春ものの出荷は終盤となっており7月末で切り上げる見込みだが、生育は順調で平年並みの出荷の見込み。	
		228.53	217	271	271.33	276	・入荷見込量: 1,700t (88) ・主産地: 北海道 (43)、岐阜 (12)、熊本 (9)、石川 (7)、岡山 (7)、愛知 (6)	・青森産、栃木産及び茨城産が平年並みの出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は平年並みに近づき見込み。	
	なす 	297.07	338	340	209.55	329	・入荷見込量: 4,170t (95) ・主産地: 茨城 (29) 群馬 (26)、栃木 (25)、埼玉 (5)	・茨城産は、病害の発生もなく生育は順調なことから平年並みの出荷の見込み。群馬産は、ハウスものから露地ものへと切り替る中で、露地ものは生育は順調なものの、ハウスものが雪害による面積の減少で総体的には平年をやや下回る出荷の見込み。栃木産は遅れ気味であった生育も回復傾向であることから、平年並みの出荷の見込み。	
		271.01	284	280	221.72	249	・入荷見込量: 1,000t (94) ・主産地: 山梨 (18)、大阪 (18)、徳島 (18)、京都 (10)、奈良 (9)	・茨城産及び栃木産は平年並みの出荷と見込まれるものの、群馬産が少なめの出荷が見込まれるため、価格は平年並みに近づきものの、平年を上回って推移する見込み。	
	ピーマン 	251.50	260	289	251.50	316	・入荷見込量: 1,910t (100) ・主産地: 茨城 (63)、岩手 (20)	・茨城産は、春ものの出荷は7月が終盤期で徐々に減少しているが、生育は順調なことから平年並みの出荷の見込み。岩手産は、一部で病気が発生しているものの適度な降雨もあり生育は概ね順調で、平年並みの出荷の見込み。	
		266.65	218	279	266.65	317	・入荷見込量: 480t (100) ・主産地: 兵庫 (19)、大分 (13)、高知 (11)、宮崎 (10)、福島 (9)、茨城 (9)	・茨城産及び岩手産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
	根 菜	だいこん 	86.59	70	81	94.60	78	・入荷見込量: 8,950t (100) ・主産地: 北海道 (55)、青森 (38)	・北海道産は降雨がなく干ばつ傾向であるものの、生育は順調であることから今後も引き続き多めの出荷の見込み。青森産は、播種時期の乾燥により発芽率が低かったものの、その後の適温適雨により生育は順調で平年並みの出荷の見込み。
			94.24	79	88	100.39	78	・入荷見込量: 3,000t (97) ・主産地: 北海道 (69)、岐阜 (13)、青森 (12)	・青森産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回る見込み。
にんじん 		133.01	125	114	133.01	112	・入荷見込量: 6,750t (100) ・主産地: 青森 (42)、千葉 (29)、北海道 (24)、輸入 (2)	・青森産は、生育は順調で品質も良く、平年並みの出荷の見込み。千葉産は7月中旬で概ね出荷は終了。北海道産は干ばつの影響で発芽率が低い産地もあり、道内の後続の産地も干ばつと長雨の影響で一部で播種が出来なかったほ場もあったことから平年よりやや少ない出荷の見込み。	
	132.62	105	106	132.62	108	・入荷見込量: 2,000t (90) ・主産地: 青森 (48)、北海道 (29)、和歌山 (12)、長崎 (9)	・青森産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷は少なめと見込まれることから、価格は平年並みに近づきものの、引き続き平年を下回る見込み。		

種類	6月の価格情報				7月の価格情報		生育及び価格の7月の見通し
	平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		
		中旬	下旬			上旬	
いも	344.00	478	502	344.00	489	・入荷見込量：244t (-) ・主産地：宮崎(62)、鹿児島(23)、輸入(8)	・宮崎産は、肥大型に適度な降雨があったことから、生育は順調で平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、現在離島からの出荷であるが、長雨の影響などから生育はあまり良くなく平年より少ない出荷となっており、今後も引き続き少なめの出荷の見込み。 ・鹿児島産の出荷が平年より少なめの出荷と見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。
	347.90	497	600	347.90	514	・入荷見込量：115t (-) ・主産地：宮崎(65)、鹿児島(23)、輸入(9)	
ばれいしょ	131.80	118	116	101.61	122	・入荷見込量：5,800t (105) ・主産地：茨城(36)、千葉(18)、静岡(18)、長崎(13)	・茨城産は6月下旬の天候不順による掘り取り作業の遅れから、やや少なめの出荷となっているものの、今後は概ね平年並みの出荷の見込み。千葉産は、掘り取り期の高温などで品質の格差があり、平年よりやや少なめの出荷となっており、引き続きやや少なめの出荷の見込み。静岡産は、生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産及び静岡産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回る若しくは平年に近づき見込み。
	131.80	118	120	101.61	123	・入荷見込量：2,500t (98) ・主産地：長崎(40)、千葉(20)、北海道(17)、静岡(7)	

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、5月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5.146gで前年比98%、購入金額は、1,993円で同107%となった。
また、小売物価統計によると、6月のキャベツの小売価格は、141円で過去5か年平均比103%と過去5か年平均を上回った。レタスは、316円で同100%となった。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年			
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比	購入金額(円)	前年比
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	103	1,775	106
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	102	1,742	105
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,903	99	1,861	105
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	97	1,887	104
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	98	1,993	107
6月	5,092	1,885	5,249	1,897		0		0
7月	4,423	1,712	4,456	1,783		0		0
8月	4,324	1,713	4,422	1,741		0		0
9月	4,768	1,803	4,577	1,863		0		0
10月	5,238	1,861	5,225	1,932		0		0
11月	4,993	1,671	4,852	1,806		0		0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成21～25年の

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	(単位：円/kg)					
	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年平均	5か年比(%)	過去5か年平均	平成26年平均	5か年比(%)
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	206	83	469	381	81
5月	169	175	104	371	351	95
6月	137	141	103	317	316	100
7月	153		0	322		0
8月	140		0	415		0
9月	149		0	506		0
10月	158		0	449		0
11月	162		0	421		0
12月	162		0	521		0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」

注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。
2 平成26年6月の値は、6月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

6月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比135%(中国は同131%、ニュージーランドは同393%)の3万5千トン、にんじんは、同135%(中国は同143%、ニュージーランドは同40%)の6千4百トン、ねぎは、同112%(中国は同112%)の4千4百トンとなった。たまねぎ、にんじん、ねぎともに前年を大幅に上回った。

野菜の輸入数量

区分	平成24年		平成25年		平成26年1～5月		平成26年5月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	445,843	118	74,389	110
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	770,255	100	168,273	96
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	1,216,097	106	242,663	100
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	595,186	107	117,161	103
中国産シェア	51		52		49		48	

資料：ペジ探(原資料) 財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	(単位：トン、%)		
		平成25年6月(A)	平成26年6月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	26,106	35,172	135
	中国	24,262	31,678	131
	ニュージーランド	738	2,899	393
にんじん	合計	4,779	6,435	135
	中国	4,358	6,236	143
	ニュージーランド	351	141	40
ねぎ	合計	3,911	4,386	112
	中国	3,909	4,383	112

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年6月は、速報値。

4 トピック — 和食における薬味(香辛野菜)について —

これから食す機会が増える冷たいそば・うどん、そうめんや冷奴にはだいこんおろし、大葉(青じそ)、ねぎやしょうがなどの薬味が欠かせない。「薬味」は、料理に添えることで香りや彩りが加わり、料理を引き立てて食欲をそそる効果と、体を温める、消化を助ける等様々な薬効的側面も期待されるものである。また、刺身の盛り合わせなどで使われる香辛、美観を作り上げるつま物も広い意味で薬味に含まれる。
薬味の大宗は香辛野菜とも呼ばれる野菜であり、その種類も多い。香辛野菜に分類し得る品目で国の統計で生産量が把握されているものだけでも19種類ある。これらの生産量はだいこんなど一般的な調理材料としても大量に使われる品目を除くと総じて少ない。(表参照) 伝統的な和食文化を誇る京都では、だいこん、ねぎや根しょうがなどの一般的な香辛野菜のほかにも、矢しょうが、防風、芽ねぎ等、年間で200種類にも及ぶつま物類を扱う青果卸売会社もある。これらの多くは業務用として、料理店などで伝統的な和食の調理、盛り付け等に使われている。
一方で、こうした少量・多彩な薬味つま物の生産は限られた地域や農家が担っている。大葉、穂じそといった比較的取り扱い量の大きいものでも愛知県の特定の生産組合が大宗を担っており、蓼酢(たです)に使われる蓼蓼(あゆたで)などは数軒の農家が生産を担っていると言われている。これら産品は、香りや彩りを添えるものとして和食文化に不可欠ではあるが、需要先が高級料理店等に限られたり、使用できる登録農薬が無い、生産者の高齢化が進んでいるなどからその生産の継続が危ぶまれるものも少なくないという。
昨年末、和食文化はユネスコの無形文化遺産に登録が決定された。今後、和牛や鰻など主食材だけでなく、その名脇役ともいえる薬味・つま物を含めた日本食文化を支える各産品に関心をもち、その産地、生産者を支えていくことが和食文化の保護、継承を図る上で重要となっている。

薬味の使用例



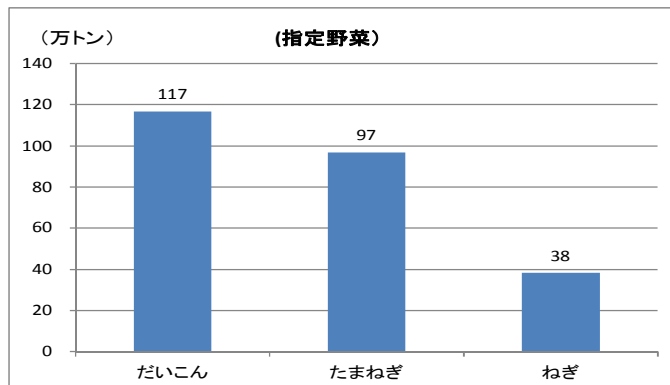
(辛味だいこんとあさつき、すだちを添えた冷やしうどん)

さまざまな薬味



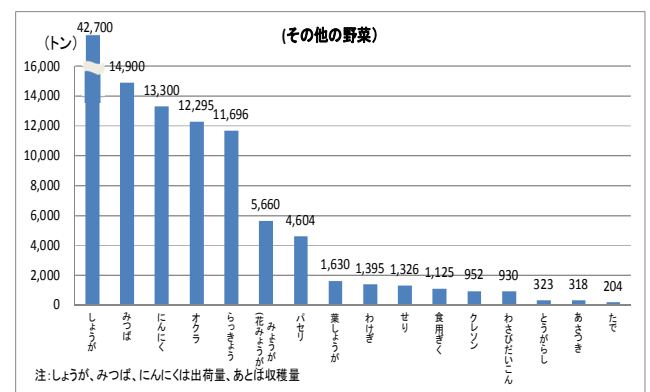
京都のスーパーの店頭には並ぶ様々な薬味

薬味等に用いられる指定野菜(=香辛野菜)の国内生産量(平成24年)



資料：農水省「野菜生産出荷統計」

薬味等に用いられる野菜(=香辛野菜)の国内生産量(平成24年)



資料：農水省「野菜生産出荷統計」、「地域特産野菜の生産状況調査」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、鈴木 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。